

科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策に関する研究 ～ドライブレコーダの活用に向けて～

研究期間
2010(H22)→2011(H23)

プロジェクトリーダー：道路空間高度化研究室長
担当研究部・センター：道路研究部

研究の背景と方針 データ収集が難しい生活道路の事故削減へ

近年、交通事故死者数、事故発生件数等は、全体として減少傾向にあるものの、生活道路においては、事故件数が増加傾向にあり、依然として厳しい状況にあります。また、延長距離の長い生活道路は、事故発生箇所が分散するため、安全対策の基礎となる事故データの収集が非常に困難であるという課題を有しています。

一方で、近年、タクシー、物流トラックを中心に、自動車運転中の前方画像、位置、速度、加速度、ブレーキ操作の有無等を記録できるドライブレコーダ等の機器の普及が急速に進んでいます。こうした新しい技術を用いることにより、事故やヒヤリハットの発生状況に関する情報を豊富かつ効率的に収集できる可能性があり、科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策への展開が期待されています。

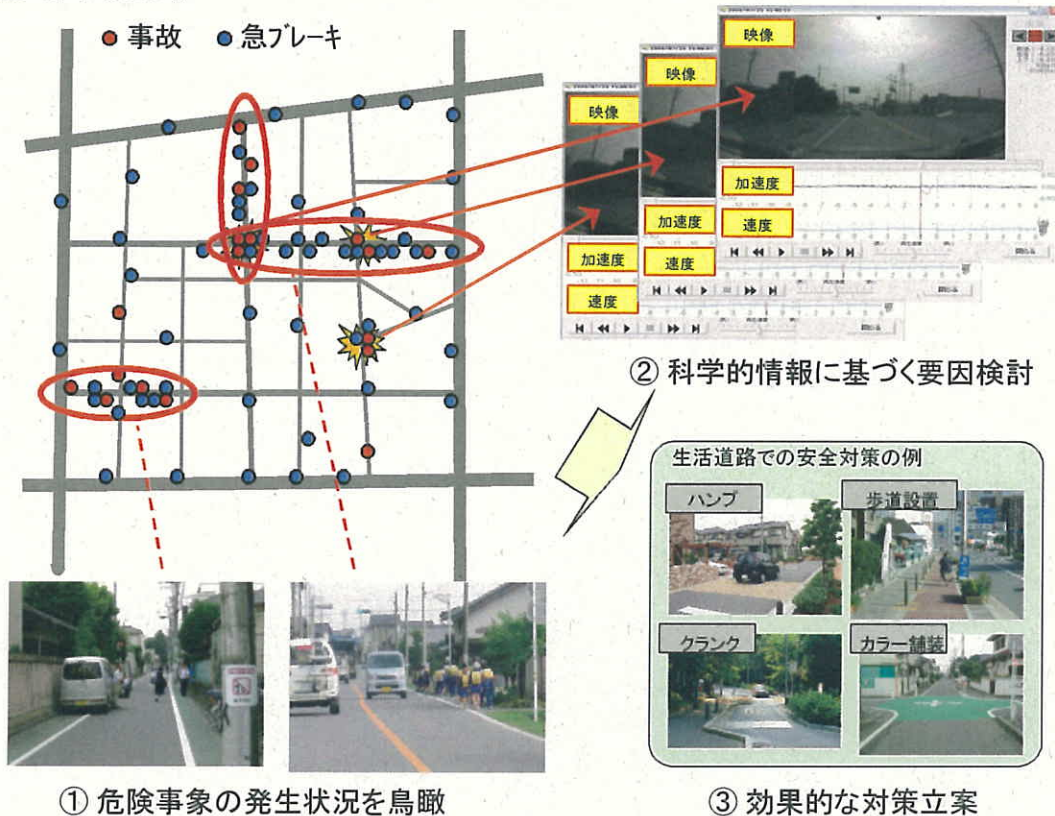
本研究では、ドライブレコーダ等により収集された科学的情報を活用した生活道路の安全対策手法について検討します。

研究目標 効率的にデータ収集・活用できる手法や仕組みを開発

- ① 記録データの基本的特性をふまえ、道路交通安全対策への活用のあり方を提案します。
- ② 記録データの中から、事故やヒヤリハット等、安全対策に必要な情報を効率的に抽出する手法を提案します。
- ③ 民間の企業等の協力を得て収集したデータを、安全対策に活用できるよう共有、蓄積する手法を提案します。
- ④ 意欲ある市民、企業、警察、道路管理者が、データを活用した対策検討を行うための手法を取りまとめます。
- ⑤ 既往のデータから、生活道路でのヒヤリハット発生状況を類型化し、現場ですぐに利用できる事例集を作成します。

研究成果の活用 データに基づく対策で生活道路の事故削減に寄与

科学的データに基づく、効果的な生活道路の安全対策が広く行われ、我が国の交通事故死者数、交通事故件数等のさらなる削減に寄与します。



《科学的情報に基づく生活道路の交通安全対策》